



完全保存版「自然素材住宅塾」



今の住まいと将来の住まいに役立つ情報満載

こんにちは。駿河屋の九代目当主一樹です。

だいぶ秋めいてきましたが、皆さんは食欲の秋ですか？それとも読書？スポーツ？僕は全部満喫してます！ところでこれからの時期、インフルエンザ対策などで湿度や室温などの調整が気になりますよね。しかし湿度を上げすぎると結露とカビが心配です。今日はそんなお話し。

それでは、今月子育てママにお役にたてる、おうちの中で大切なこと、発信します！

【インフルエンザや結露やカビを防ぐリフォームとは？】

人は生きている間、呼吸を止めることは出来ません。なのに毎日吸い込む住まいの空気が、ダニやカビなど微生物で汚染されているとしたら嫌ですよ。

1990年代に社会問題となったシックハウス症候群をご存じですか？

これは早く安く住まいを建てるために開発された、新建材（ベニヤやビニールクロス、接着剤など）が原因で、体調不良となり、新築住宅に入居できないなど、社会問題となった事件です。2003年の法改正によって、だいぶ改善されましたが、子供や女性などが影響を受けやすい問題です。

新建材はビニールなどの石油製品で住宅をつくっているため、室内の湿度調整ができず、結露などが発生しやすく、カビやダニが発生しやすい環境になっています。なのでぜんそくやアレルギー疾患の患者は少なくなっていないのが現状です。

こうしたビニール製の建材や接着剤などが原因で発症する「シックハウス」は、すでに一般的な言葉になりましたが、もっと広い意味のことを指すと私は考えます。例えば、室内温度のムラだったり、湿気の多さ、カビ、ダニなどの室内微生物汚染、冬の寒さや夏の夜の寝苦しい暑さなど、室内環境が原因の健康障害を起こすものが「シックハウス」という概念に当てはまると考えます。

その中でも、室内の微生物汚染は、現代の住宅においてとても深刻なのはやはり「人の居るところには微生物も必ずいる」ということです。強い薬で絶滅させようとしても、人間も同じ生物なので、人体にも影響が出ます。

やはり、住まい手側の正しい知識と、生活改善、室内環境の改善をするための設備や家づくりを行うことで、許容できるレベルまで抑制するしかないんです。
では、繁殖を抑制するにはどうしたらいいのでしょうか。

カビは生きる為に適温がありますが、-10度から50度までと言われていまして一般の住宅の年間を通した温度と同じなんです・・・。
湿度は65%以上で繁殖し、湿度が高ければ高いほど、繁殖速度が速まり生息する種類が増えます。
インフルエンザが気になるこれからの時期、菌繁殖も考えると40%から50%程度に室内の湿度を抑えることが大切です。
しかしこの湿度の調整って結構難しいですよ。ついつい加湿しすぎや、調理や入浴などの余分な湿気で結露してしまいます。

室内の湿度を調整する効果がある建材である珪藻土（けいそうど）の塗壁や無垢の木のフローリングにすると、湿度40%から60%付近で自然に調整してくれますので、健康な住環境にはとても効果的なんです。

無垢のフローリングと、湿度調整効果の高い珪藻土を使ったリフォーム後のあるお客様とお話しをしたのですが、リフォーム前にくらべて結露がほとんど無いとのこと。ペアガラスも断熱も大切ですが仕上げ材に純度の高い信頼できる珪藻土を採用したことが大きな理由です。

家づくりをきっかけに「体と心がよろこぶ暮らし」を考える

創業 1657年 株式会社駿河屋 〒131-0033 東京都墨田区向島 1-24-16

TEL03-5637-1179 <http://www.surugaya-life.jp>

